

保健体育科学習指導案

学 級 3 年 1 組 (39名)
場 所 伊 敷 中 学 校 武 道 館
指導者 教 諭 堤 清 竜

1 単 元 武 道 「柔 道」

2 単元について

武道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合い互いに高め合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

本単元は、中学校学習指導要領保健体育科における体育分野の内容「F 武道」に分類される種目の「柔道」を取り扱う。柔道は、相手と組み合って攻防し、投げる、抑えるなどの技能を競い合う格闘的な運動であり、瞬時に変化する相手に応じた判断力を高めることに適した教材である。また、基本動作や基本となる技を身に付け、相手の力をうまく利用して得意技が発揮できるようになったり、相手の動きに応じて投げ技や固め技で勝敗を競い合ったりすることで楽しさや喜びを味わわせながら相手を尊重する態度や協調性を高めるのに適した教材である。本学級の生徒は、1・2年時に「柔道」を学習している。その中で「武道」の目標に上げられている、基本動作や基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの簡易的な攻防をすることを中心に学習してきた。また練習と練習の間や振り返りにおいて、話合いの時間を設定し、自己の課題の発見や解決に向けて考えたことを、他者に分かりやすく伝えられるように、ホワイトボードを使いながら、班の課題や練習法・作戦を効率よく仲間と共有することで話合い活動を深めてきた。

指導にあたっては、単元前レポートを活用して「柔道」の特性や歴史、ルール、また技能や戦術、練習方法について確認する。学習Ⅰでは、基礎的・基本的な技能（受身）を習得するための運動（回転運動）を設定する。学習Ⅱでは、固め技と投げ技の基本的技能や、連絡技を習得し、固め技の簡易的な試合や立ち技の乱取りができるようにする。授業では学習カードを活用し、個の課題や仲間への気付きなど、根拠をもってまとめられるようにさせたい。

さらに指導全般において、知識の理解を基に運動の技能を身に付けたり、運動の技能を身に付けることで一層知識を深めたりするなど、知識と運動の技能の往還関係の確立を目指した学習を展開していく。

3 単元の目標

- (1) 技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開することができる。
(知識及び技能)
- (2) 攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができる。
(学びに向かう力、人間性等)

4 単元の指導計画・評価規準（全12時間）

時		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
指導計画	整列・あいさつ・健康観察・準備運動・補強運動												
	オリエンテーション ・特性、成り立ち ・学習の進め方 ・単元構造図 ・単元前レポート ・リフレクションカード	＜学習Ⅰ＞ 基本的な技能を高める。 ・前回り受身，後ろ受身，横受身 ・けさ固め，横四方固め，上四方固め ・固め技の抑え方や逃げ方 ・体落とし，膝車，大腰，払腰，足払い ・固め技の乱取 ・審判法の確認					＜学習Ⅱ＞ 基本的な技能を元に固め技の乱取りや，投げ技の練習や乱取りを行う。 ・大外刈り，大内刈り，小内刈り，釣り込み腰 ・返し技，技の連絡 ・立ち技の乱取り ・審判法の実際 ・ルールの理解					学習Ⅱ まとめの試合 ・正規のルールで，試合を行う，	
	整理運動・学習のまとめ・次時の確認・健康観察・片付け												
評価規準	知識	① 伝統的な考え方，技の名称や見取り稽古の仕方，体力の高め方などを理解している。 ② 試合の行い方には，試合におけるルール，審判及び運営の仕方などを理解している。											
	技能	① 基本動作や基本となる技を用いて，投げたり抑えたりすることができる。 ② 相手の動きの変化に応じた基本動作や連絡技を用いて，簡易な攻防をする。											
	思考・判断 表現	① 自己や仲間の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫しようとしている。 ② 自己の考えたことを他者にわかりやすく伝えようとしている。											
	主体的に学習に 取り組む態度	① 柔道の学習に自主的に取り組もうとしている。 ② 相手を尊重し，武道の伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。また，一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。 ③ 禁じ技を用いないなど健康・安全を確保しようとしている。											
評価機会と方法	評価規準												
	知	①	①	①							②	②	
	技		②		③			②	②	②			②
	思・判・表				①		②	②	①	②	①	②	
	主	①	①	①		②							③
		評価方法（見取る方法・手段）											
観察・記録		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
カード等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

5 本時の実際（7/12）

(1) 題材 武道 「柔道」

(2) 目標

① 相手の動きの変化に応じた基本動作や連絡技を用いて、簡易な攻防ができる。

(知識及び技能)

② 自己の課題を発見し、基礎的な知識や技能を活用して、学習課題への取り組み方を工夫できる。

(思考力、判断力、表現力等)

(3) 授業設計の工夫

学習Ⅰの授業で、「自己や仲間の課題を発見し、立ち技の練習方法への取り組み方を工夫する」という目標をもとに授業を行い、既習した技の練習をグループごとに練習方法を考えて実践させた。その際、タブレットを用いて自他の動きの出来栄を確認して課題を発見しやすくした。課題解決の際には、既習の練習方法や実技の本に載っている練習方法を参考にさせ、課題解決に向かう力の育成を目指した。その授業において、自己の課題や解決方法を学習カードの記入をさせ、下記の基準のもと評価を行った。

A	投げ技や崩しの、自己や仲間の課題を明確に発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を適切に工夫することができる。
B	投げ技や崩しの、自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫することができる。
C	B未満

その結果、20%の生徒が「A」、70%の生徒が「B」、10%の生徒が「C」であった。これを基準に照らすと、「ケース2」となる。

ケース2	多くの生徒がB基準以上であるが、AよりBが多い場合	授業のねらいを多くの生徒が概ね達成している状態と判断する。さらにBをAにするために、課題の解決方法を例示するなどの手立てを考え、次時の授業以降に実行する。
------	---------------------------	---

これに照らし、本授業では班で話し合った自己や仲間の課題解決に向けた考えを全体に共有し、自他の課題や課題解決に向けた話し合いをする活動を取り入れる。その際、解決方法を例示し、連絡技をよりよくする視点を与えてねらいをもって修正できるようにする。

(4) 展開

過程	時間	学習形態	学習活動	○指導上の留意点 ◎評価 ※授業設計の工夫
準備			1 準備、安全点検をする。	○ 場の安全を確認する。
準備運動			2 準備運動を行う。	○ 仲間と交流し、自他の心身の状態に気付かせながら、準備運動と補強運動ができるようにする。
	8分	一斉	・ラジオ体操 ・補強運動（回転運動）を行う。	
健康観察			3 あいさつ・健康観察をする。	○ 欠席者、見学者を把握し、生徒の健康状態を観察する。

課題追求	34 分	一斉	4 本時の目標と学習の流れを確認する。 《内容目標》 連絡技を用いて、相手を投げるためにはどうすればよいだろうか。 《行動目標》 動きの中で気付いたことを、タブレットや言葉等を用いて根拠や理由をもって説明することができる。	○ 本時の学習の目標や流れを理解させ、学習の見通しをもたせる。
		班	5 前時に作成した連絡技の映像を確認し、班で意見を出し合いながら連絡技を完成させる。	○ これまでの学習を想起させる学習資料（単元前レポート・実技の本）や映像などを提示することにより、活用できる動きや場面を予想しやすくする。 ※ 気付いたことを言葉だけでなく、可視化して共有できるようタブレットを準備し、より活動を具体化したり、動きを確認したりしやすくする。 ※ 班を巡回しながら、考えの理由を問うような発問（声掛け）を行い根拠の確認をする。
		一斉	6 班の代表の生徒が連絡技を発表する。	○ 班ごとに電子黒板を用いて、崩しの方向や連絡技のポイントを説明させる。 ○ 授業設計の工夫 ・考えを全体に共有するためにロイロノートを用いる。 ・考えを共有し、自他の課題を考えさせる。
		班	7 作成した連絡技を用いて、約束乱取りを行う。 8 本日行った約束乱取りの映像を班ごとに確認し、反省を行う。	○ 約束乱取りのルールをしっかりと把握させる。 ○ 乱取りをしていない生徒は、審判や安全管理、撮影等を行わせる。 ○ 自分が考えたとおりに動いていたか確認し、改善点を話し合うことができるよう助言する。 ◎ 自分や他者の良いところや改善点を話し合うことができる。【思・判・表】（学習カード）

整理運動		一斉	9 整理運動をする。	○ 整理運動で心身をリラックスできるようにする。
評価・反省	8分	個人	10 本時を振り返り，評価・反省を行う。	○ 学習カードを用いて授業中に考えたことをまとめることで，次の学びへとつなげられるようにする。
		班		
		一斉	11 次時の学習内容を確認する。	○ 次時の学習内容や目標を伝え，更なる学習意欲を喚起する。
		一斉	12 健康観察，あいさつをする。	○ 生徒の体調を確認し，後片付けをする。
健康観察				

(5) 本時の評価の基準

A	投げ技や崩しの，課題を発見し課題を解決するために適切な運動の取り組み方を工夫することができた。
B	投げ技や崩しの，課題を発見し課題を解決するために運動の取り組み方を工夫することができた。
C	B 未満